

# 長畝ふるさと通信

【2015年5月号】

## ■ 田植えは晴天なり



このラインにセンター合わせて進めば苗はまっすぐに植えられるのですが・・・

座席の後ろには苗の植え付け台があり、この台が苗箱の幅30センチを左右に移動しながらどんどん下の方へ苗を降ろしていくと、植え付け爪がその苗を2～3本ずつ掻き取って田面に植え付けていくという仕組みなのですが、実際に見てみないと田植機の仕組みは解りづらいかも・・・

とにかく晴れた穏やかな日は田面も透き通り植えやすいのですが、春の嵐となり風速10メートル近くの強風が吹く日には、水面が大きく波打ち泥で濁ってしまい(右下写真、わかりづらいでしょうが・・・)、自分がどこにいるのかさえわからなくなる始末です。こんな日は基本的に作業を中止するのですが、意地を張って無理矢理強行すると・・・植え付けは蛇行し、せっかく植えた苗はプカプカ浮いたりして・・・後の祭りです。

5月6日から田植えがスタートしました。連日晴天続きで、朝7時から夕方6時までみっちりやりました。「苗はまっすぐに植えること！」が基本です。最初に畦に沿ってまっすぐに付けたセンターマーカ―に田植機の先端にあるポールを合わせ、あとはひたすらまっすぐに田植機を進めていきます。(左の写真でおわかりいただけるでしょうか)



<今年も2日ほどこうした風速10メートルの強風が吹き荒れました>



- 田植え最終日(5月25日)の田植機の勇姿です。泥にまみれ、暑さに耐え、一生懸命働きました。でも明日から来年の5月までロングバケーションですから、いい身分ですよ。
- 左上はこの時期になぜか出現するアーチを描かない「虹」です。

### ■ 田植えが終われば・・・

ようやく田植えが終わったと思ったら今度は間髪入れず大豆の播種が待っています。トラクターの後ろに装着された大豆播種用のアタッチメントは、「畝立て・肥料散布・大豆播種」の3作業を一度にこなしてくれる優れもの。



おけさ柿の生産者は摘蕾作業(たくさん付いたつぼみを一枝に1個だけ残して後は落としてしまい、実を大きくする作業)で早朝から暗くなるまで脚立に乗りっぱなし。

## ■ 畦草刈りが毎日続く・・・刈っても刈っても雑草はまた伸びてくる

<ビフォー> → <アフター>



田植えが終わると待っているのはうっそうと生い茂った畦草刈りです。田植え期間中はとにかく朝から晩まで田植え三昧で、畦草刈りまで手が回りません。腰の高さまで伸びた雑草はとにかく手強い。そこで月末は組合員のみなさんからご協力頂いて「畦草刈り強化週間」を設け、早朝6時から8時までの2時間、連日集中的に畦草刈りを行いました。



## ■ 百姓の朝はとにかく早い

百姓の朝はとにかく早い。早朝5時には目覚め、そそくさと田んぼへ出かけていく。田んぼの水のかかり具合を確認し、苗の生育状況を観察する。時には欠株の補植をし、田んぼに生えかけた雑草を抜いたり、畦草刈りをする。佐渡ではこの習慣を「飯前(めしめえ)の田守り」という。朝の涼しい時間帯に田んぼ仕事をする習慣のことです。かといって日中はぶらぶらしているのではなく、おけさ柿の摘蓄に汗を流し、夕方暗くなるまで田んぼや畑で過ごす。1年のうちで今が一番忙しい。こうした日常が佐渡の景観を維持しているんだと思います。畦草刈り強化週間では大勢の組合員が朝早くから作業に駆けつけてくれます。田んぼでコメを作ることが「生業」だから。

27年産米も順調にスタートしました。今年も美味しいお米をお届けできると思います。お腹いっぱい召し上がって下さい。

**「おかわりは自由です」**

